

令和4年度 発掘調査 ここに注目

令和4年度発掘調査では、弥生時代特徴的な石器や石製品
がいくつか見つかりました。

大門遺跡では初めて見つかった品をご紹介します。

管玉

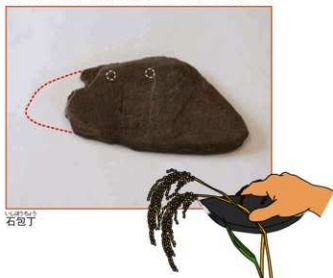
今回の調査では管玉が2点見つかりました。管玉は弥生時代の
ビーズネックレスのビーズのようなもので、当時の人々もオシャレ
を楽しんでいたことがわかります。



美野向山遺跡出土管玉

石包丁

石包丁と呼ばれる弥生時代の石器も見つかっています。石包丁
は稲の穂先だけをむしり取るための道具で、一般的には指を入れる
ための紐を通す穴があります。しかし、大門遺跡の石包丁はまだ
作っている途中なのか、穴がついていませんでした。

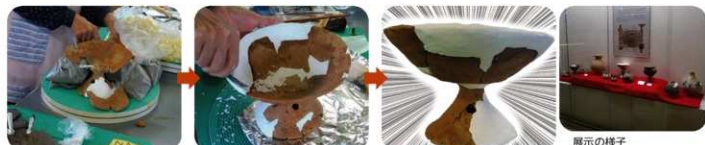


石包丁

土器が元の姿に戻るまで PART 3

割れたり欠けたりしている土器のかげらを接着剤などでくっつけて、なるべく元の形に戻していきませんが、全てのかげらが残っている
ことはほとんどありません。そのため、破片が見つからなかった部分には石こうを入れて、元あった形に戻していきます。

このようにして、元の形に戻した状態のものを郷土資料館や歴史文化館で展示することで、多くの方に見ていただいた際にわかり
やすいようにご紹介しています。



石こうを入れて...

はみ出たところは削る...

完成!

展示の様子

令和4年度

大門遺跡

田端地区

発掘調査

大門遺跡はJR袋井駅南口エリアから袋井南コミュニティセンター付近まで広がる弥生時代中期
から古墳時代初期を主体とした遺跡です。袋井駅南都市拠点土地区画整理事業に伴って、遺跡の
発掘調査は平成30年度から継続的に行われています。

遺跡の調査に伴って、弥生時代～古墳時代の当時の人々が使った道具(遺物)や生活の痕跡
(遺構)が多く見つかっています。

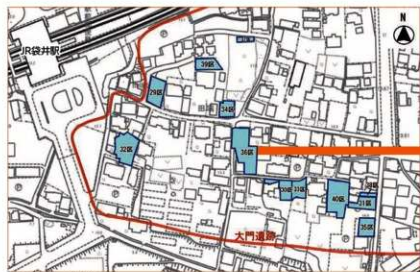
令和4年度調査で新たに発見された遺物や遺構をご紹介します。



令和4年度調査の成果

令和4年度は調査区合計3,531㎡の発掘調査を行いました。

遺跡範囲の南西部を中心に調査を行った結果、主に弥生時代～古墳時代の竪穴住居や大型の溝が見つかりました。



令和4年度 調査場所

焼けた竪穴住居

令和4年度に調査した36調査区からは竪穴住居が2つ見つかりました。

1つは非常に大型の竪穴住居で直径約10mほどの大きさでした。何度も建て直して徐々に小さくしながら使っていたようで、住居の溝が「同心円状」に残っていました。

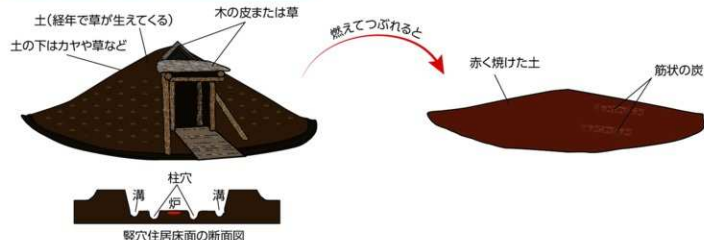
建物の床面には「真っ赤」に焼けた土がこんもりと集っていて、その土の中には建物の柱だったと考えられる炭が筋状に入っていました。このことから、建物が火災にあったことや屋根の上に土をのせるタイプの土葺き屋根の家だったことがわかります。

また、床面からは管玉が1点出土しました(詳細は裏面)。



何度も建て直された竪穴住居の跡

土葺き竪穴住居イメージ



36調査区 空撮写真



大量の土器が見つかった穴

大型の竪穴住居の北側で見つかった穴(土坑)からは大量の土器がまとまって見つかりました。住居の中からはあまり土器が見つからないので、いらなくなった土器をココにまとめて捨てたのかもかもしれません。



竪穴住居の跡

調査区南側からも少し小型の竪穴住居が見つかりました。伊の跡と考えられる赤い土が住居の中央から見つかりました。

調査区北西の「焼けた竪穴住居」と比較してみるとサイズの違いがよくわかります。

割れる土器 割れない土器



バラバラになった土器の破片が大量に出てくることもあります。そんな時はどの地層から出たのか調べるために、帯状に土を残して掘っていきます。



30区から、割れないで全体が残っている土器も見つかりました。土の重さでつぶれてしまうことが多いのでとても珍しいんですよ。

使わなくなって捨てちゃった土器?

大切にしまった大事な土器なのかも